

令和5年度第1回兵庫県スポーツ推進審議会 議事録

- 1 期日・場所 令和5年10月25日(水) 10:00~11:30
兵庫県民会館 「鶴」
〒650-0011 神戸市中央区下山手通4丁目16-3
- 2 出席者
(委員11名) 長ヶ原委員 伊藤委員 平野委員 吉矢委員
鶴木委員 中西委員 小林委員 三上委員
北中委員 久保田委員 榎並委員

欠席：倉委員 恒木委員 角南委員 川原委員

(行政関係者) 井ノ本部長 (県民生活部)
相浦課長 (福祉部ユニバーサル推進課長)
内藤課長 (教育委員会体育保健課長)
織邊調整官 (県民生活部スポーツ振興スポーツ推進調整官)

(陪席2名) 八瀬事務局長 (兵庫県スポーツ協会)
新谷マラソン担当官 (県民生活部スポーツ振興課)

(事務局) 森鼻副課長 宮本競技・生涯スポーツ班長
榎木主任スポーツ振興専門員 蓬野主任スポーツ振興専門員
- 3 開会あいさつ 井ノ本県民生活部長
- 4 委員紹介 出席者名簿順に自己紹介
- 5 会長選出 兵庫県スポーツ推進審議会規則第3条により会長を選出
- 6 会長あいさつ 長ヶ原会長
- 7 署名委員の指名 署名委員は、伊藤委員、小林委員に決定
- 8 報告事項
 - (1) 令和4年度第2回スポーツ推進審議会の議事録の報告
令和4年度第2回兵庫県スポーツ推進審議会の審議事項と報告事項の議事録について事務局より説明し、承認を受けた。
 - (2) 第2期兵庫県スポーツ推進計画 令和5年度実施計画について
スポーツ振興課スポーツ推進調整官が説明した。
 - (3) 令和5年度主要事業について
 - ① スポーツ振興課に関する主要事業について、スポーツ振興課スポーツ推進調整官が説明した。
 - ② 神戸マラソンについて、スポーツ振興課マラソン担当官が説明した。
 - ③ 体育保健課に関する主要事業について、体育保健課長が説明した。
 - ④ ユニバーサル推進課に関する主要事業について、ユニバーサル推進課長が説明した。

(4) 令和5年度スポーツ振興団体に交付する補助金の状況について
スポーツ振興課副課長が説明した。

(5) HYOGO スポーツ新展開検討委員会について

検討委員会の目的や組織、今後のスケジュール等について、スポーツ振興課スポーツ推進調整官及び長ヶ原会長（HYOGO スポーツ新展開検討委員会座長）が説明した。

■ 委員の主な意見及び事務局の説明

<第2期兵庫県スポーツ推進計画 令和5年度実施計画について>

【長ヶ原会長】

- 昨年度も少し議論になったことであるが、統括指標の「成人のスポーツ実施率の向上」について令和4年度の現状値よりも令和5年度の目標値の方が下がっているが、これはどういう理由か。

【事務局】

- 昨年度の第2回会議時に話題になった内容であるが、新型コロナウイルス感染症の影響により手軽に体を動かす（短い時間のウォーキングなど）ことが数値に反映された可能性があり、感染症が落ち着いた今後も継続した数値になるか様子を見る必要もあるだろうとの御意見もいただき、目標値を変更していない。

<令和5年度の主要事業について>

(1) スポーツ振興課

【平野委員】※幼児の運動習慣づくり推進事業について

- 小学校・中学校などでは体力アップサポーターなどですすでに取り組みされているところではあるが、幼児期の段階の事業なので、保育士や保育園をどのように巻き込んで議論しているのかと、保育士養成学校において「運動」という概念はあまりないので、どのようなアイデアが挙がっているのか。

【事務局】

- 保育士については、県の保育協会会長に委員として参加していただいている。また、委員会においては、運動習慣を形成するうえでは、幼児期だけでなく、乳児期からも重要であるとともに、「運動遊び」といった体を動かすことを定着させていくことが重要であるとの御意見をいただいたことから、県として乳幼児期に共通して取り組めるプログラム等を検討する事業を進めている。

【長ヶ原会長】

- 幼児期をターゲットにしていることは、かなり特徴的である。以前の会議で、倉委員から幼児期の体力が、それ以後の子どもの体力につながっているとの説明もあった。兵庫県の児童の体力テストにおいて、8種目か9種目で全国平均を下回っていたかに思うが、それを改善するには、幼児期からの取組だけでなく、乳児期からの取組も重要である。

【嶋木委員】※競技スポーツ振興事業について

- 競技スポーツ振興事業について、具体的に説明してもらいたい。

【事務局】

- 世界で活躍できるアスリートの発掘・育成や、国民体育大会で活躍できる兵庫ゆかりの選手の育成、また進学等で他県に出た選手が、卒業後兵庫県において仕事と競技活動を両立できる基盤づくり等を、兵庫県スポーツ協会への補助事業や各競技団体などの関係機関と連携しながら取り組んでいる。

【嶋木委員】

- 兵庫県では、ジュニア期の育成システムとして、「ひょうごジュニアスポーツアカデミー」

という、多様な分野と関わりを持った育成システムがある。それが、今後廃止される方向で動いていると聞いている。アスリート発掘・育成において、その指導体制等で競技団体に頼る部分が多いことは理解できるが、「専門化の早期化」を助長するおそれがある、この事業の廃止について強い懸念を持っている。

【長ヶ原会長】

- これまで蓄積されたノウハウもあるので、事業の廃止により、その関係が断ち切れるのも問題であるので、何か継続できる方法はないか検討いただきたい。

【事務局】

「HYOGO スポーツ新展開検討委員会」という、県としてスポーツに関する新たな取組も始まっているので、そのことも含め今後、検討をしていく。

【八瀬事務局長】

- 兵庫県スポーツ協会としては、競技スポーツの推進として、競技団体からの要請もあり、競技団体ごとの競技者を増やす取組を中心として行っている。具体的には県内数カ所、競技人口の少ない所謂マイナースポーツと呼ばれる競技も含め、競技団体と連携して、競技のスポーツ体験会を実施する。

(2) 体育保健課

【吉矢委員】※部活動の地域移行に係る安全面の確保について

- 部活動の地域移行については、スポーツ医学関係の学会で、安全面の確保について議論がされている。資料には体制整備や指導者の質の保障などが挙げられているが、安全面の観点からもしっかり検討をしてもらいたい。

【内藤課長】

- 部活動を学校管理下に置くのかどうかにより変わる部分もあるが、今後の国の動向を注視しながら、県としても教員の働き方改革と地域が担う部分等の課題を整理しつつ、安全面の確保について検討していく。

【長ヶ原会長】

- 移行の形態により、責任の所在も変わってくるが、現在の状況はどうなっているのか。

【内藤課長】

- 教育事務所単位での協議会を開催し、協議を進めている。協議会が、先週に開催されたばかりなので、現在情報を集約しているところであるが、令和8年度には土日の部活動について望まない教員には業務を行わないように検討している市町もある。

【伊藤委員】

- 尼崎市の情報を伝えると、現在3校をモデル校として選定し、何部を地域移行対象(モデル)とするか検討中である。また、特に問題となっているのが、指導者確保の問題であり、今後は、「コンソーシアム」という組織作りを進め、その中で指導者の派遣もできる形を目指していくのもよいかと考えている。新たな組織(コンソーシアム)を作るよりも、行政とスポーツ(体育)協会、スポーツ事業団、大学等が連携する組織作りのほうがハードルも下がり、組織しやすいかと感じる。この連携体が認められることで、地域のスポーツや部活動の地域移行の課題にも取り組みやすくなるかと思う。

(3) ユニバーサル推進課

【三上委員】※パラアスリート発掘・育成事業について

- マルチサポート事業のジュニア向けプログラムのスポーツ用具購入に関して、対象の種目や予算を教えてもらいたい。また、平日に行われるシニア向けプログラムが活発になると指導者が仕事を休んで行かなければならない現状がある。

【相浦ユニバーサル推進課長】

- ジュニア向けプログラムは今年度から開始しているが、用具がないことが一番の課題であ

り、県として補助していく。具体的には、手元に資料がないので、後日回答する。

【三上委員】※パラスポーツ実施環境の整備事業について

- パラスポーツの環境整備では、なかなか県内には拠点施設がないのが現状である。よって、拠点の整備よりも既存のスポーツクラブにパラスポーツ指導者を増やしていき、クラブ内でパラスポーツを普及していければよいのではないかと。

【相浦ユニバーサル推進課長】

- 拠点については、今後「HYOGO スポーツ新展開」における、ユニバーサルスポーツの分科会を設置するので、その中で新たな拠点を整備するのか、今ある地域資源を活用するのかを検討していく。

【長ヶ原会長】

- 拠点については、海外の事例として、地域の施設を活用し、障害者の方も一緒に活動し、そこから拠点を作っていくことが多い。県内には、その候補となる施設も多いのではないかと。

9 閉 会

【署名委員】

小林 芳子

伊藤 亮広